

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

大温室の整備



館・CSRと温室の整備を行いました。まずは、一度温室の植物をすべて別の温室に移し、高圧洗浄機にて、窓ガラスや床を清掃しました。その後、鉢棚のペンキ塗りと土台作りを行いました。

大温室は、これまで生物学教室の先生方が野外実習等で採集された南西諸島の植物を中心に栽培管理され、教育研究に利用されてきました。この度、さらに展示解説を充実させるために、総合博物



鉢棚は、古いシステムラックの棚を再利用し、土台は農業用パイプを切って作りました。今後は、植物の植え替えや補充を行っていく予定です。さらに、ラベルの見直しや解説文の作成などに取り組みながら、学内外からの見学者に、見て学べる施設として新規公開していけたらと考えています。ぜひ、来春以降をお楽しみに…。



コケヤシダ、東広島周辺の水草の展示にも力を入れていきます。

キャンパスのシダ

発見の小径を川沿いに歩くと、いろいろなシダを観察できます

◆ウラボシ(ウラボシ科ウラボシ属)

・葉柄の先端から左右に羽片を水平に広げる。コシダよりやや湿った場所に群生。葉は縁起物として正月のお飾りに。

◆コシダ(ウラボシ科コシダ属)

・葉柄の先端が二又に分かれ左右に羽片が出て、さらに分岐点の5cm程度からさらに二又に分かれる。



ウラボシ



コシダ

どちらも葉の裏は、白っぽい色をしている

施設公開(11/6)

ホームカミングデーによる理学部公開

今年は天候もよく、これまでにない多くの参加者が来られました。特に、大温室を整備して見学がしやすくなり、CSR学生の解説なども評判がよく、本来の施設公開らしくなりました。CSR主体で企画してくれた樹木クイズも、例年以上に充実したものになり、多くの方に楽しんでいただきました。毎年楽しみに来て下さる方も多く、企画する側も励みになります。来年も新しい企画に挑戦しますので、期待してください。



しめ縄作り、どんぐりストラップ、まつぼっくりツリーと恒例の企画も好評でした。今年は、染め物を使った飾りも作りました。



栽培実習・R3 年秋コース



サツマイモ掘り(安納芋・鳴門金時)も体験しました。↑

R3 年秋コースでは、干し柿作りに挑戦しました。渋柿の皮をむいて熱湯で殺菌し2週間程度風通しのいいところに干しました。完成後はみんなで美味しくいただきました。実習では、カズ、ダイコン、フロッキーなど多くの野菜を収穫しました。ハクサイやホウレンソウは、今から収穫していきます。



附属幼稚園の稲刈り



11月4日に年長組21名が、生態実験園の田んぼにて学生ボランティアたちと一しょに稲刈りを行いました。田んぼの水はけが悪く最後の方は、泥に足をとられながらも、がんばって全部の稲を刈り取りました。刈り取った稲は、園児が植物園まで運び、天日干しにしました。



南京香米
アントシアニン系色素が含まれる

三原幼稚園 年長スペシャルデー

三原附属の28名が10月19日に植物園を訪れました。本来は夏に予定されていましたが、新型コロナや熱中症対策などにより秋に延期になりました。午前中は、生態実験園で川遊びをし、昼食後はビオトープで生きものの体験をして、大学で秋の一日を楽しく過ごしました。



園内の樹木

ザクロ Punica granatum L.



ミソハギ科

落葉小高木。果実は花拓の発達したもので、球状に熟し、秋に不規則に裂ける。赤い多汁性の果肉の粒は食用となり、子孫繁栄の意味を持ち、庭木として植栽される。

園内の樹木

カキ/キ Diospyros Kaki Thumb.



カキ/キ科

東アジア原産の落葉樹。日本では果樹として北海道以外で広く栽培される。甘いものは日本で改良された。カキの渋はタンニンによる。写真は広島県発祥の渋柿・西条柿。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科
東広島植物園

TEL:082-422-7111
(内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp